

# 学 会 録 事

## 1. 2003年第1回持ち回り評議員会報告(平成15年12月19日から26日の期間)

以下の報告と議案の審議を行った。

### 報告事項

#### 1. "学会活性化のための方策"について

1) 外国会員への国内会員と同等の権利付与に関しては活性化WGの方針が固まり、その成案を作成中である。2) 学会広報活動充実のために庶務幹事2名; 海外担当石田健一郎氏(金沢大)、広報担当寫田智氏(北大)が就任し、活動を開始した。3) 日本産藻類の「藻類誌」の編纂発行と「藻類誌編纂委員会」の活動方針、16年度実務開始と編集費の拠出方法のあらましが決まった(詳細については改めて報告)。

3. 日本海藻協会が主体となる、第19回国際海藻シンポジウムの神戸開催決定(2007年3月下旬~4月上旬)の連絡があり、日本藻類学会への協力・支援の要請依頼が同協会の有賀・大野両氏よりあった。今後、学会の具体的な協力策を検討して行くことになる。

3. アジア太平洋藻類学連合(APPA)の次期副会長候補に、マレーシアのPhang S. M. 女史が推薦され、2005年タイで開催される第4回APPF(アジア太平洋藻類学フォーラム)で正式に承認される予定である。

### 審議事項

#### 1. 日本藻類学会研究奨励賞の設立について

2003年第27回日本藻類学会総会にて「藻類」に発表された論文等を対象にした新たな賞を設けることが承認されたが、これに基づき検討してきた学会活性化ワーキング・グループから和文誌に関連する賞として「日本藻類学会研究奨励賞」設立の提案があり、審議した。この賞は元日本藻類学会長有賀祐勝氏より申し出のあった寄付金を基金とし、藻類学会で活躍する若手研究者の研究奨励を目的とするものである。

#### 2. 日本分類学連合の宣伝イベントへの参加の是非について

日本分類学連合から2004年2月1日から3月15日まで、ジュンク堂書店池袋本店において、1) 出版物の展示販売、2) 学会宣伝用チラシの配布、3) ポスターの掲示、4) ギャラリー・トークの実施および参加要請の連絡があり、事務局としては特別な出費や大きな実務負担が無いことを確認の上、参加することを提案した。

#### 3. 第7回日本マリンバイオテクノロジー学会大会の協賛要請について

日本マリンバイオテクノロジー学会会長伏谷伸宏氏より平成16年6月17日~19日、北海道大学クラーク会館にて開催される、頭書の大会の協賛要請があり、協賛の可否について審議した。4. 日本藻類学会企画委員会の存続について 吉田忠生会長時代に発足し、藻類グッズの作成などを介して種々の学会活動に貢献してきた日本藻類学会企画委員会(石川委員長)の存続と資金管理の方法について、石川依久子元会長より相談があり、これを受けて企画委員会の廃止と資金の寄

付名目での一般会計収入への組み入れを提案した。

その結果、4件すべてについて基本的には承認された。しかし日本藻類学会研究奨励賞については文面や応募条件などについて付帯意見が、日本藻類学会企画委員会についてはその復活を望むも意見もあり、これらの点については平成16年3月に札幌で開催される評議員会でさらに審議・調整する予定である。

## 2. 秋季シンポジウム開催

2003年秋季藻類シンポジウム「海藻加工技術の現状と展望」(平成15年10月10日:ロイヤル・パークホテルー東京)が日本海藻協会との共催、日本応用藻類学研究会協賛により実施された。講演者と演題は次の通りである。

・「伝統食品の海苔の歴史と加工」河村敏弘(山形屋海苔店)・「コンブエキスの製造と利用」夜久俊治(東和化成工業)・「ワカメの利用開発と需要拡大」佐藤啓一(理研食品)・「ひじきの加工技術の現状と展望」山城繁樹、戸高義敦、南元洋(株:山忠)・「海藻の利用を拡大した海藻サラダ」鈴木実(株:フィラガー)・「ヒット素材の青海苔とモズク」大野正夫(高知大)、加用守(加用物産)、川村伸正(山忠食品)

なお、このシンポジウムに関する問い合わせや講演要旨請求は以下の日本海藻協会に連絡されたい。〒781-1164 土佐市宇佐町井尻194 高知大学海洋生物教育センター、e-mail: mohno@cc.kochi-u.ac.jp

## 3. 日本分類学会連合

第3回総会およびシンポジウム(平成16年1月10・11日:国立科学博物館分館)が開催された。

### 【主な報告事項】

・第2回シンポジウムの開催。・日本産生物種数調査の結果の公表。・進化学会福岡大会での公開講演会の開催。・GBIFとの共催シンポジウムの開催。・メーリングリストTAXAの開設。・日本進化学会と日本甲虫学会が加盟(現在27学会)。・ニューズレター3~4号発行(3号よりPDF形式で配付)。・ホームページは加盟学会情報の追加、GBIFシードマネージメントの案内、日本生物種数調査、JTYPES、メーリングリストの導入ページの追加。・連合が申請した科研費「日本タイプ標本データベース」が採択。・連合のホームページ上にタイプ標本データベースを検索するためのページを開設。・GBIFとの連携シンポジウムを2003年10月7日に筑波国際会議場で共催:Symposium on taxonomy and biological databases: toward the understanding of biodiversity in Japanを開催。

### 【主な審議事項】

・役員の変更:連合代表:松浦啓一、連合副代表:原慶明、幹事(庶務):佐々木猛智、幹事(会計):伊藤元己、幹事(Web):浅川毅守、幹事(News letter):柁原 宏、幹事(Mailing list):三中信宏、監査員:平野義明、益山樹生。・2003年

度決算と監査：収入1,158,306円，次年度繰越金756,681円，支出401,625円。・2004年度事業計画：連合の宣伝イベント（2月1日～3月15日ジュンク堂書店池袋本店で開催），第4回シンポジウム「種がちがうと，こんなにちがう-生物を「種」の単位で眺めてみよう」（仮題）。・ニュースレター年間2号を出版予定。・メーリングリストおよび個人登録：2003年12月に運用を開始したTAXAは誰でも登録，投稿することができる。・日本産生物種数調査：科博のサーバーに公開済のデータベースの充実。・日本タイプ標本データベース：タイプ標本のデータを持つ組織への参加呼び掛けと充実。・研究者データベース作成に向けて検討。・2004年度予算案の承認と加盟学会分担金の徴集（1万円／学会）。

#### 【シンポジウム】

1) 移入種と生物多様性の攪乱・「シンポジウム開催に当たって」松浦啓一（科博）・「外国産クワガタムシの大量輸入

がもたらす生態リスク」五箇公一（科博）・「無融合生殖種と有性生殖種の出会い：日本に侵入したセイヨウタンポポの場合」芝池博幸（農環技研）・「バラスト水によるプランクトンの導入」大塚攻（広島大）ほか・「島の外来種問題：琉球列島の爬虫・両生類の場合」太田英利（琉球大）・「多様性保全が有効利用か：ブラックバス問題の解決を阻むものとは？」瀬能宏（神奈川県博）・「移入種（外来種）対策について」上杉哲郎（環境省）

2) 新種記載をスピード・アップする方策を探る・「新種記載はスピード・アップできるか？」馬渡駿輔（北大）・「分類学を加速する方法はあるのか？形態観察に関するいくつかの提案」白山義久（京大）・「形質記載をスピード・アップする方法－原生生物の場合」堀口健雄（北大）・「分類学情報を共有するシステムを開発する」伊藤元巳（東大）・「分類学研究者を増やす方策」松井正文（京大）